

おうちの方へ

小 / 算数 / 1年 / 数と計算 /  
おうちの方へ / 理解シート

10までのたし算で、指を使って計算しているが、  
このままでよいのでしょうか



指を使っていると、繰り上がりのある計算の段階で、  
おおきくつまずいてしまいます。

1

計算では、指を使わないように指導しましょう。

指を使って計算しているのは、数がどのようなものの集まりであるか、はっきり認識していないためです。

教科書の「10までのかず」がどのような意味を持っているか、いろいろなものの集まりや、おはじきなどの個数にどのように対応しているかが、頭の中にイメージとしてうかばないためです。

数のイメージが頭の中に形成されないと、いつまでも、指を折りながら数の計算をするようになってしまいます。和が10までの数のうちは、どうにか両手を使って計算できますが、和が10より大きな数になると、指の数がたりなくなって、計算ができなくなってしまいます。

2

数のイメージを形成する、おはじきの遊びをしましょう。

5個のおはじきを分ける遊びを紹介します。

- ① はじめに、5個のおはじきの個数を数えます。
  - ② 5個のおはじきを、(4個と1個)に分けます。そして、個数を数えます。
  - ③ 5個のおはじきを、(3個と2個)に分けます。そして、個数を数えます。
  - ④ 5個のおはじきを、(2個と3個)に分けます。そして、個数を数えます。
  - ⑤ 5個のおはじきを、(1個と4個)に分けます。そして、個数を数えます。
- ・おうちの方と1年生が、代わるがわる問題を出し合うと、楽しいゲームになります。
  - ・はじめのおはじきの個数を、3～10個の間で変えてみましょう。